

平成 29 年 11 月 16 日

眼科に通院中の患者さんへ(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

研究課題名 黄斑円孔網膜剥離の多施設後ろ向き観察研究

研究責任者 滋賀医科大学 眼科 柿木雅志
(共同研究機関と施設責任者)

鹿児島大学	眼科	坂本泰二
筑波大学	眼科	岡本史樹
徳島大学	眼科	香留崇
福井大学	眼科	高村佳弘
市立札幌病院	眼科	木下貴正
名古屋市立大学	眼科	安川力
奈良医科大学	眼科	緒方奈保子
兵庫医科大学	眼科	五味文

研究の目的

黄斑円孔網膜剥離とは、網膜の中心の黄斑に孔が生じて、網膜が剥れてしまう病気で、ほとんどが強度近視の目に生じます。通常の網膜剥離よりも治りづらく、視力の回復も劣ります。治療は硝子体手術という手術を行います。比較のおこりづらい病気なので、単独の施設の研究では多くの症例数が集まらず、得られる情報も限られてしまいます。このため、多施設で検討することによって治療後の視力や網膜の状態、およびこれらに関する手術前の情報を明らかにすることを目的としています。

研究の方法

1 対象となる患者さん

平成 22 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日までに黄斑円孔網膜剥離に対して当科にて初回硝子体手術を受けられた方。

2 利用するカルテ情報

年齢、性別、術前視力、術前の網膜の状態、初回手術方法、初回手術後の網膜の状態、再発の有無、合併症の有無、術後視力などを調査します。

個人情報の取り扱い

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

※上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は、ご連絡ください。

【お問い合わせ先】

北海道札幌市中央区北 11 条西 13 丁目

市立札幌病院眼科